



新病院建設工事開始起工式を執り行いました

2019 年度完成予定の城北病院新病院建設工事が、この 4 月よりいよいよ始まりました。

5 月 20 日（金）には、地域の皆様、建設関係者の皆様をはじめ、歴代の法人役員、職員など多くの参加を得て、起工式を執り行いました。

石川県健康友の会連合会藤牧渡会長、大野健次院長、三上和久建設委員会委員長（副院長）の鍬入れで、工事が安全にすすみ、災害に強い病院の完成を参加者全員で祈念しました。

工期は 4 年近くにおよび、その間にはベッドの休止も発生しますが、当面は稼働病床数に変更はございません。従来通りの入院診療を行っておりますので、ご紹介等、引き続きよろしくお願いたします。



熊本地震、震災支援に職員を派遣しました

4 月 14・16 日と、熊本・大分を中心に発生した地震被害に対し、全日本民医連からの要請に応え、城北病院・診療所より、震災支援に職員派遣を行っています。第一次隊として、4/25 から 4 日間、医師・看護師・作業療法士の 3 名を派遣しました。地震発生から 10 日目の南阿蘇村と熊本民医連の病院への支援を行いました。南阿蘇村では、臨時診療所の支援や総合福祉センター、通所介護施設へ支援に入り、それぞれの専門性を活かした支援を行いました。

5/1 以降も、看護師、保健師、放射線技師を中心に、支援を継続しています。



私たちがめざすもの

- 1 患者の立場に立ち、インフォームドコンセントを大切にします。
- 2 専門的な力量向上に努め、安全安心の医療・福祉の提供をすすめます。
- 3 すべての人々の健康づくりを支援し、安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 4 人権を守り無差別・平等の医療・福祉をめざします。

医療福祉宣言

城北病院 城北診療所 2015

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
 TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
<http://johoku-hosp.com>
 E-mail renkeisitu@johoku.jp



医療福祉連携相談室だより

Jo-HOKU No. 42

2016.6.15 summer



城北病院 副院長 柳澤 深志

医療効率と診療報酬に誘導される、医療システムに、翻弄されていてよいのか ～ 診療報酬改定を受け改めて思う ～

2016 年 4 月 1 日、2016 年度診療報酬改定が実施されました。保険医団体協議会の今年 2 月声明によると、「今次改定は、本体を 0.49% 引き上げる一方、薬価・材料等の引き下げを含めると、全体で 1.31% のマイナス改定となった」とあります。単純には言えませんが、約 1% の診療報酬引き下げは、同じ医療を行いながら前年度の収入の 1% が減ることになります。少しでも収入増できる分野はないか、収益構造の悪い部門の対応、支出減など、病院経営者は考えざるを得ません。急性期病床では、7：1 看護配置基準要件の一つ重症度・医療・看護必要度 25% を維持し、採算割れする DPC 期間 II-III の患者の早期退院をすすめるべきではありません。医療療養病床では医療区分 2-3 の基準 80% 以上（医療療養 2 は 50% が新設）を確保する努力も尋常ではありません。

でも、ちょっと足を止めて考えてみる必要があります。私たちを必要としている患者、地域住民は、そのような分類で自らの医療内容を見られていることを良しとしているのでしょうか。医療が必要であるから受診し、適応があるから入院する。それは、どこに住む人も、どのような経済状況やどのような思想信条の人でも同じでしょう。貧困と格差の進行する中では、経済的状況で受診できない、必要な医療を受ける事ができない患者・住民の事をまず思い、対策を考えていくことこそ必要ではないかと思うのです。

患者を、疾患や家庭状況、社会生活から見るのではなく、DPC 期間のどの時期にいるか、在宅復帰可能か、重症度・医療、看護必要度、医療区分で見てしまっていないだろうか。そうさせられてはいないだろうか。改めて、自省する必要があるのではと思うこの頃です。

急性期病床の削減、医療から介護への政策誘導が強力に推し進められる中、本当の意味で地域の実情に応じて高齢者が自立した生活を営むことができるように、地域の中や行政区での医療介護の連携を協同した取り組みとしてすすめるべきではないかと思うこの頃です。

医療の変革は、「市場原理的に変革するのか」「人権原則を重視して変革するのか」その両者がせめぎあっている事を

鑑み、私たちの取り組みを見つめ直すことが求められていると痛感しています。

同時に、昨年 9 月成立、今年 3 月に施行された平和安全関連 2 法は、日本の国を、生活や医療福祉重視から、軍事優先に変えていく危険性を大いにはらんでいます。この「戦争法」ともいべき体制に対抗しながら、社会保障の充実した社会システムを創っていくことも、合わせて重要な課題だと認識しています。医療介護に従事する私たちの協同した取り組みは、更に発展が期待されている情勢です。



患者様、地域のみなさんとの
つながる栄養部を目指して

城北病院・診療所 職場紹介

城北病院栄養部は入院患者様、外来患者様の給食管理、栄養管理をすべて直営で運営しています。

給食管理では、365日医師の指示にもとづき「安心安全で美味しい治療食」の提供に努めています。現在提供している食事の約1/3が摂食嚥下障害食であり、調理師は咀嚼し易く、嚥下し易い食事形態に配慮しながら調理を行っています。当院では「やわらか食」という、見た目は普通食に近いが、圧力鍋と増

粘剤を使用した軟らかく時間が経っても離水し難い形態の食事があります。また、入院患者様のお誕生日には、調理師が腕を振るい「祝膳」を提供して大変喜ばれており、感謝の手紙を頂くこともあります。

栄養管理では、食事栄養指導や退院時の調理実習、また病棟カンファレンス、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム、慢性腎臓病チーム、緩和ケアチームなどへの参加で多職種との連携を密に行うことにより、入院中だけでなく、退院後の栄養管理に繋がるよう努めています。

患者様やご家族と共に学習や交流ができる「疾患別グループ活動」では、調理実習やホテルランチなどを通して疾患について学んでいます。また、地域のみなさん、会員の方々を対象とした「友の会活動」では、「食中毒予防」について学んだり、新年会では調理師が料理を担当するなど、その他多くの行事に参加して楽しく交流を深めながら、「食」の問題を地域の方々に知っていただく取り組みを行っています。

工事が始まった新病院建設で、栄養部は第一期工事の予定であり、年内中には新厨房での調理と食事提供が行われる予定です。今後は緩和ケア病棟の建設も予定されており、さらに個別性に配慮した食事提供と栄養管理が求められると考えます。

患者様や他職種からの様々な要望、さらに今後は地域との連携を深めて様々な期待に応えることが出来るよう、栄養部一同努めていきたいと思ひます。



やわらか食



祝膳



新職員
しょうかい

新職員 38 名を
迎えてスタート!



今年度、当院では研修医をはじめとして、看護師、リハビリスタッフ、事務、ソーシャルワーカーなど 38名の新入職員を迎え、新たな活気の中で新年度をスタートしました。

新入職員オリエンテーションでは、当院の歴史や概要・規則、医療倫理、医療安全、感染予防などの医療人



としての基礎的理解を深めるだけでなく、地域に根ざした医療活動を知る機会の一つとしてフィールドワークを行いました。

今年は、健康友の会金沢北ブロックの協力を得て、「城北病院がある地域探検 1・2」「生きがいセンターまつもとていを知ろう」「たすけあい活動の紹介」の4つのグループに分かれ、それぞれの活動を深める交流を体験しました。その中の地域探検グループでは、地域住民でもある先輩職員が地域の特色を説明しながら案内役として地域を先導し、2008年の浅ノ川豪雨災害にて甚大な被害にあった地域にさしかかった時には、職員総出で取り組んだボランティア活動の体験を熱心に紹介する場面も見受けられました。最初は緊張した面持ちで参加した新入職員でしたが、3日間のオリエンテーションをとおして同期の仲間と打ち解ける中で、研修最終日にはイキイキと笑顔で語り合いながら、研修を終えることができました。

新ドクター

今年度より新しく城北病院・診療所の
医療活動に参加いただくことになりました



原潤一郎 医師

4月より、上荒屋クリニックに内科および整形外科医として赴任しました原です。同時に城北診療所で、整形外科外来・総合外来も担当しております。9年前より、過疎地での診療を念頭にプライマリケアを勉強してまいりましたが、金沢での地域医療にも貢献できたらと思ひます。よろしくお願ひいたします。



打出 喜義 医師

4月から城北病院婦人科に勤務することになりました打出です。小松短期大学の教員もしていますから、水曜日、木曜日午前中だけの外来になりますが、月経痛や月経不順、過多月経、下腹痛、更年期障害、子宮脱など婦人科疾患を中心に診察したいと思ひています。下腹部が重苦しい、頻尿・残尿感がある、尿漏れに悩まされている、外陰部が重苦しいなどの症状でお悩みの方には、泌尿器科とも連携し対応致しますのでお気軽に受診下さい。



牧田 伸三 医師

4月より、城北病院で勤務することになりました。当院ではこれまで放射線科医師が非常勤であり、診断結果が早くなることが期待されます。放射線科医師の仕事は画像の解釈(読影)だけでなく、適正な検査方法の検討やカンファレンスなどを含みます。大学病院などと連携して仕事を円滑に行い、スタッフや各科の先生方とさらに密にコミュニケーションすることで、当院の画像診断の質を向上できればと考えています。外来は設定していませんが、画像診断でお悩みの方(たとえば肺に影があると言われたり、肺がんでないかご心配な方など)は、関係各科とも連携し対応致しますので、画像データや検査データなどご準備のうえ地域医療連携室を通じてご相談ください。